

指標 14.4.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 14.4.1 生物学的に持続可能なレベルの水産資源の割合

ターゲット 14.4 水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020 年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。

ゴール 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

定義及び根拠

○ 定義

最大持続生産量 (MSY) の範囲内で利用されている水産資源又はその種類の割合として定義されている。

○ 概念

最大持続生産量 (MSY) は、漁獲により資源が減少しても自然の回復力が働いて増加することから、その回復量が最大になる資源量で、回復量分を漁獲することで「最大の漁獲」が続けられるという理論である。

○ 根拠及び解釈

我が国では、2018 年においては MSY ベースの資源評価は行われていなかったため、生物学的に安定した再生産を期待できる親魚量等の下限値である限界管理基準値 (Blimit) を持続性の判断基準として使用した。

2019 年以降、MSY ベースの資源評価への移行を進めており、移行が完了した魚種については、親魚量が MSY を達成する親魚量の 80% 以上の状態である場合に持続可能であると判断する。

データソース及び収集方法

我が国周辺水域の漁業資源評価

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

MSY ベースの資源評価がなされている水産資源のうち、上記基準に照らして持続可能と判断される水産資源の資源数を、MSY ベースの資源評価がなされている水産資源の資源数で除し、100 を乗じた値とする。

○ コメントと限界

我が国では 2018 年においては、MSY ベースの資源評価は行われていなかったため、生物学的に安定した再生産を期待できる親魚量等の下限値である限界管理基準値（Blimit）を基に判断していたが、2019 年以降は順次 MSY ベースの資源評価へ移行している。

データの詳細集計

なし

参考

<http://abchan.fra.go.jp/>

データ提供府省

農林水産省水産庁（国際連合食糧農業機関）

関連政策府省

農林水産省水産庁

担当国際機関

国際連合食糧農業機関（FAO）